

行財政改革の推進と 安全安心のまちづくり

創政クラブ 長野 良三

山中市長が、就任以来「住んでみたい都市、住び残りたい都市」を目指し、行財政改革を積極的に推進してきたことを、大いに評価する。

この三年間の行財政改革の進捗状況と結果はどうか。また「三位一体の改革」での税源移譲に伴う、大幅な市税収入の減が予想される十九年度を控え、任期四年目の今年度の目標と主な施策は何か。

介護予防事業は、国の重大事業として取り組んでいるが、本市ではどのような計画で推進しようとしているのか。また、今春から障害者自立支援法が施行されるが、障がい者



青色回収待合バス（市車）

市長が、消防庁舎建設の実施設計を、十八年度に行うことを表明していることは大いに評価する。しかし、災害時、防災拠点施設が災害本部を設置する市役所に近い方がよいといった次元の低い判断で、精道小学校体育館跡地を建設計画地とする

消防施設について ワークショップ 畑中 俊彦

消防施設について

が住み慣れた地域で生活を継続できるような、筋力機能向上閉じこもり予防等の事業整備を行う。障がい者福祉施策の充実では、必要な福祉サービスの確保や説明会実施等、新しい制度の円滑導入に努める。防犯対策では、まちづくり防犯グループの結成や芦屋市生活安全推進連絡会とも情報提供や交換などネットワーク化の充実を図っていく。

市窓口業務の延長と 子供の読書推進について

英明クラブ 松木 義昭

市役所窓口業務の午後五時半までの延長については、これまでたびたび取り上げてきた。その後三田市を含む阪神七市人事協議会で実施を申し合わせ、これまでに尼崎や伊丹が実施し、西宮は四月一日から実施する予定である。本市ではなぜ実現できないのか。実施を阻害する要因は何か。



浜風小学校図書館

形成の上で多くの役割を担っている。ところが、昨年一月に市内の小中学生を対象に実施した生活意識調査では、中学二年生で一ヶ月間に全く本を読まない生徒の割合が三割と、全国平均よりも高い結果が出ている。教育委員会はこれをどのように分析しているのか。また、各学校での読書推進の取り組みの状況は、どのようにになっているのか。

総括質問

● 小泉内閣による定率減税の半減・全廃、各種控除の縮小・廃止などの税制改正による課税強化は、国民健康保険料や介護保険料、公営住宅家賃等の負担増にもつながり、低所得者層に大きな打撃と連動して負担増となる各施策ごとに、市民負担軽減のため、思い切った一般財源の投入や、減免制度の拡充を図るべきではないか。

わが党として一貫して求めてきた少人数学級編制について、新年度以降の見通しを示されたい。子供の安全優先で未整備の学校園施設の耐震化を求めるが、今後の計画はどうか。

負担軽減で暮らし応援を 学校園の耐震化を

日本共産党 平野 貞雄

わが党として一貫して求めてきた少人数学級編制について、新年度以降の見通しを示されたい。子供の安全優先で未整備の学校園施設の耐震化を求めるが、今後の計画はどうか。



精道中学校

職員の意識改革と 環境保全の前進を

公明党 帰山 和也

①三位一体の改革で、個人市民税率が一律六パーセントになり、約十三億円もの税収減が確定である。この緊急事態の中、行革計画の着実な実施と、更なる行革は避けられない。市場化テストの実施が検討される中、特に、職員の意識改革が重要である。能力評価制度の導入や窓口業務改革のためのアンケート実施などの具体策はどうか。

②環境保全は生命尊厳につながる重要な課題である。二酸化炭素など温室効果ガスの影響で地球温暖化が進み、これが異常気象の原因ともいわれている。今回の施政方針にあ



環境処理センター

での分別徹底、市民の協力による分別の推進により、四百トンの再資源化増を目指している。市役所での分別の種類方法を統一し、職員研修を実施し、分別収集を徹底していく。環境家計簿は、まず庁議メンバー等がこの四月から取り組み、年々増やしていきたい。ノーマイカーデーの公用車の利用は、公務に支障のない限り、極力控えている。

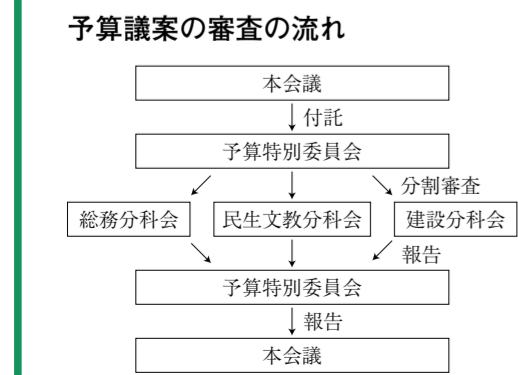
介護保険制度や障害者自立支援制度が変化する中で、十年以上凍結している総合福祉センターのリースはますます高まっているがどうか。すこやか長寿プラン（二十一）策定委員会で意見のあった、呉川デイサービスを利用の高齢者が、四月の介護

しかし、その方針のもと、現場で全力で頑張っている看護助手や文化振興財団職員等を、次々と解雇しているものか。市民サービスの低下にもつながるのではないか。

現段階で具体的な検討時期等は答えられない。呉川デイサービスセンターの廃止後は、この施設を介護予防事業で活用するが、どの程度のことかできるか検討しているところである。コミュニティタクシー（バス）は、平成十八年度に検討委員会を設置し、運行方法、路線等を検討し、国、



あしや温泉と旧呉川デイサービスセンター



平成18年度予算案 特別委員会を設置し審査

分科会の審査過程で、委員から意見要望が出される

本市議会は、市長から平成18年度一般会計をはじめとする13会計予算案の提出を受け、3月8日（水）に全議員（24名）で構成する予算特別委員会を設置し、審査を行いました。まず、予算特別委員会では、委員長に米田守議員を、副委員長に中島健一議員を選出しました。予算案に対する質疑は詳細な審査を行うため、すでにある3つの常任委員会（総務・民生文教・建設）と同じメンバーで構成する分科会を設置し、そこで質疑を行うこととしました。分科会での審査は、延べ5日間にわたり、各委員からは、

さまざまな意見・要望などが出されました。次に予算特別委員会では、各分科会で行われた質疑を基に座長報告を行い、また、委員から一般会計に対する組み替え動議が提出されました。討論の後、予算案はすべて可決すべきものと結論を出し、組み替え動議は否決しました。本会議では、予算特別委員長の報告を受けた後、各議員から予算案に対する賛成あるいは反対の討論があり、表決の結果、市長提出の予算案はすべて原案どおり可決しました。



精道小学校の視察を実施しました

民生文教常任委員会が建てかえ状況を調査

民生文教常任委員会（寺前尊文委員長）は、平成18年1月30日（月）に委員会の調査事項である「精道小学校建てかえについて」現地視察を行いました。芦屋市でもっとも歴史がある精道小学校の老朽化した校舎の建てかえは長年の懸案でしたが、16年度から約20億円の総工費で4期に分けた工事が進行中であり、今回は委員をはじめ、16人の議員が1期工事で建てかえたばかりの特別教室棟の視察を行いました。各フロアごとにパーテーションの色が塗り分けられた真新し

い校舎には、バリアフリーや屋上緑化の採用など、現代のニーズにこたえた工夫が見られましたが、予算的な制約から、旧校舎の古いロッカーや本棚をそのまま用いている教室もありました。大きな工事は授業の時間を避けて行うとのことでしたが、やはり「うるさい」という児童・教員の声も。全体としては十分な緑化スペースはとれないものの、シンボルとも言える中庭の松の木を伐採せずに工事を行ったり、「こんなときだからこそ」と全校を挙げて緑化に取り組んでいるとの黒田校長の説明がありました。



屋上緑化された新校舎で